

# 9月定例会・藤田議員の一般質問



## 米原市民報

日本共産党米原市議団  
清水隆徳Tel52-1969  
藤田正雄Tel55-1128  
太田幸代Tel54-2286

<http://www.jcp-maibarashigidan.com>

# 25%の公共施設削減目標は取消せ

## 湖国バス・伊吹登山口線の減便について

9月6日から一般質問が始まりました。トップの太田市議に続き4番目に藤田議員が質問に立ちました。「湖国バス伊吹登山口線減便について」と「山東地区の施設問題について」と題して一般質問を行いました。寄せられた切実な住民要求によるものです。一方的なバスや施設の切り捨て、公共施設のあり方を追求しました。

Q、今回のダイヤ変更をなぜなされたのですか。経過についてお答えください。

A、今回のダイヤ変更は、長浜方面の経路の変更により、長浜駅を経由する路線の運行時間が長くなり、法令で定められているバス運転手の休憩時間の確保が難しくなるために見直されたものです。

Q、これらの改正について、行政はどのように対応されたのか。

A、関係する米原市、長浜市と湖国バスの3者で協議を行いました。改正はやむを得ないものと判断し、米原市と長浜市のそれぞれの地域公共交通会議で了承を得た。

Q、利用者への周知はどのようにされたのですか。利用者はほとんど直前まで改正を知らなかったと言っておられます。

A、今回のダイヤ改正については、広報まいばらへの掲載や、湖国バスがバス停に新しいダイヤを掲示してお知らせを行いました。

Q、「地域公共交通会議」は本当に利用者の立場に立っているか。

A、委員の皆様には、利用者の立場から地域の公共交通に対する課題を審議していただいております。利用者の立場に立った機関であると考えています。

Q、まいちゃん号の運用変更に伴い、湖国バスも10月

に改編となると聞いていますが、利用者の立場に立った、改編についてどのようなことを考えるか。

A、10月の湖国バスの運行見直しについては、乗合タクシーまいちゃん号の運行区域拡大に伴い、醒ヶ井線、梓河内線、曲谷線の3路線について、見直しを行っています。10月の湖国バスの運行見直しについては、利用者の利便性向上に繋がるものと考えている。

※減便された伊吹登山口線の復活について強く求めました。当局より、来年2月のダイヤ改正時には十分配慮をするとの回答がありました。

## 山東地区の公共施設の削減問題について

Q、本年3月には米原市公共施設等総合管理計画が策定されました。20年間で床面積25%の削減が示されている。今後高齢化が進む中で、徒歩で気軽に利用できることが最も望ましいことから、公共施設は大きな単位ではなく小学校区単位を原則に、配置することが最も望ましいと考える。数値が示されると、数値ありきの統廃合となってしまう。数値目標は取り下げられるべきではないか。

A、厳しい財政状況の中、将来の維持管理経費なども考えて、必要な投資を確実に実施するための、対応方針を定めるものでもあり、大事な計画であり、まちづくりや住民に提供する

行政サービスにも影響を及ぼすものであるからこそ、計画の実効性確保のためにも、共に目指す数値目標を設けた。

Q、大原生涯学習センターについては、

A、今年度末で生涯学習機能を廃止する方向で進めている。

Q、山東生涯学習センターの指定管理を行っている団体に対して更新しないとの通知がなされたと聞いたが、

A、旧町地域ごとに集約することが望ましいと考えており、山東生涯学習センターおよび大原生涯学習センターの生涯学習機能は、山東公民館および市民交流プラザ（ルッチプラザ）に集約していきたい。

Q、グリーンパーク山東が、指定管理者制度の元、本年6月に大型グランピング施設を開設しました。このグランピング施設の「公的施設」の目的・効果についてどのように考えているのか。

A、指定管理者の自己資金で実施する自主事業として市が承認し、運営している。※グランピング施設については、指定管理者の自主事業の枠を超えているものがあり、指定管理制度にはなじまない指摘しました。

## 雑感

今回の質問で旧町時代に作ってきた施設が廃止されていく姿が明らかになった。単なる「なつかしさ」ではなく、高齢化していく街の中で気軽に自転車や徒歩で行け、そして仲間が集まる施設は本当に必要だ。立派な施設はいらぬ。そんな街づくりが理想だ。

